

100 統合されたコマ送り動画

《聖マタイの召命》の真相

2024

真鍋友範



《聖マタイの召命》1600 カラヴァッジョ

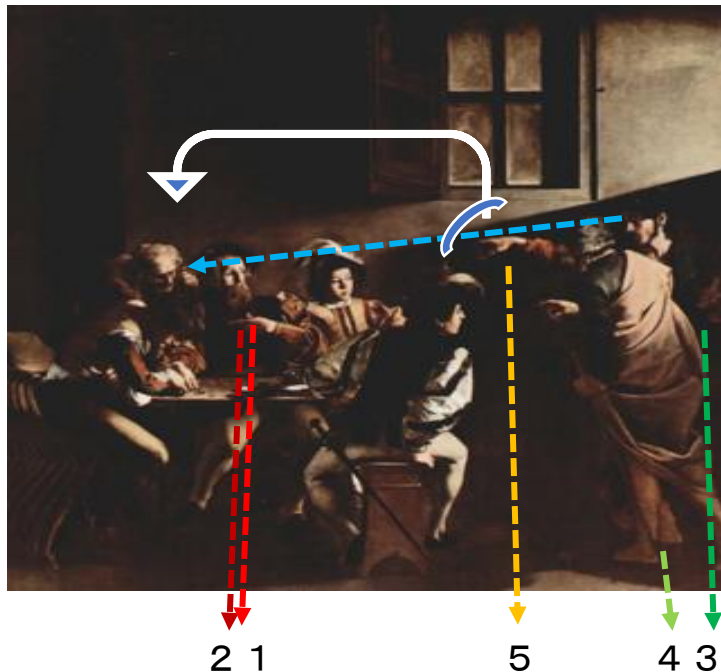
1 分析：《聖マタイの召命》は、【統合コマ送り動画】である

結論から先に述べると、当該場面は、二段階の髭男の質問動作と、その質問に答えるイエスの三段階の回答動作から構成された、【全5段階場面の統合コマ送り動画】作品なのだ。

バロック絵画を開拓したカラヴァッジョの功績とは、この【全5段階場面の統合コマ送り動画】の創作によって、当時の人々に、静止画ではない、動画としての絵画を開発し提供した点にあるのだ。

その楽しみ方は、絵画分析的スタイルが必要となる。一目で理解できる絵画ではない。

この絵画は次の五段階場面に分析できる。



- 1) 親指を胸に当てる髭男の動作「私をお探しですか」の瞬間
- 2) 人差し指の動作「それとも、隣のメガネの収税人ですか」の瞬間
- 3) イエスの開いた左手による質問受容動作【答えよう】の瞬間
- 4) 右足の一步左側への位置移動の完結した瞬間
その意味は【メガネの収税人の顔が見える位置への視点移動】
- 5) イエスの右腕・手首の回転動作の完結した瞬間
【手首より先に力無し・指差し動作では無い。召命対象者の顔付近でイエスの回された手は止まる。】「向こう側の眼鏡の人だ。」の意味
この場面でイエスは言う。「私に従いなさい。」

以上の五段階の場面が、動作読み取りの進行に連れて、コマ送りのように変化するのだ。

観衆は、この過程で、過去の静止画体験から、バロックの新しいコマ送り動画体験をしたのだ。

つまり、カラヴァッジョが描いたバロック絵画は、五段階の身体動作場面が統合された、衝撃の統合コマ送り動画体験をもたらしたのだ。

だ

驚く点は、この絵画の手法だった。はじめて見た誰もが、最初は誰が呼ばれた

のか、不明であることだ。5つの段階を読み取り、はじめて誰が呼ばれたかが、解るといふ、驚きの描画手法だ。

この形式は、カラヴァッジョの開発した、【絵画モデルを使った、リアリズム手法】でしか到達できない手法だったのだ。

絵画だから本来は静止画であるが、動作解析が進むに連れて、静止画が動画になっていく、という、カラヴァッジョの開発した統合コマ送り動画の絵画は、当時礼拝堂でこの絵画をはじめて見たローマの人々にとって、おそらく革新的体験であっただろう。

2 従来のバロック絵画の定義は正しいのか

これまで、カラヴァッジョ絵画では、その迫真的写実表現が評価されてきた。しかし、それだけでは、バロック絵画の開拓者であるカラヴァッジョ作品を説明しきっていない。

この【静止画におけるバロック期の近代的動画体験】こそ、さらに重要な要素だ。

バロック美術は、絵画・彫刻・建築の融合した劇場的空間というイメージだが、それだけでは、バロックの特徴が定義され尽くされていないと感じる。

重要なのは、このバロック始動期に、カラヴァッジョの生み出した【静止画における近代的動画表現】なのだ。

これを正確に学んだ作品こそ、スペインの画家ペラスケスの作品《ラス・メニナス》だ。

この作品の解説はあるが、一つ欠けている視点がある。

それは、静止画における動画要素だ。



《ラス・メニーナス》1656 ベラスケス

この作品は、複雑な構図構成に注目が集まるが、実はそれ以外の大切な要素がある。

イエロー枠に注目しよう。召使いの子供が右側から勢いよく大型犬に向かって駆け寄り、思いっきり背中を踏みつける直前の光景だ。

さて、次に展開するのは、どういう混乱場面なのか。想像を掻き立てられるのだ。

【ベラスケスはこの静かな情景の中に、次に生じる混乱場面の予兆を描きこんでいる。】

つまり、これは、ベラスケスがイタリア・バロックから学んだ動画要素だったのだ。

瞬間の情景から、動画情景への展開こそ、静止画中心のルネサンス絵画からバロック絵画の最大改革要素なのだ。

カラヴァッジョの《聖マタイの召命》が、当時の社会に与えた驚愕の動画体験は、その後のバロック画家たちの動画構成に多大な影響を与えているのだ。